

ふくいじょうあと
9. 福井城跡

(中央公園再整備事業)

所在地：福井市大手3丁目地係

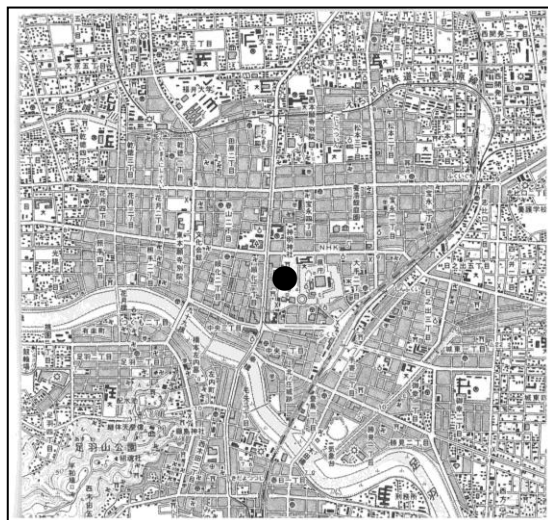
調査原因：中央公園再整備事業

調査期間：平成29年1月6日～30日

調査主体：福井市教育委員会事務局文化財保護課

調査面積：計1,400 m²

時代：近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 調査地である福井市役所北側の中央公園では、再整備事業に伴い平成25～27年度にかけて、堀の位置や石垣の状況等の調査を行い、その結果を基に整備が進められています。今回の調査地では、西二の丸と西三の丸間の石垣を再現するため、堀石垣の位置、石積み状況、基礎部分の確認を目的に立会調査を行いました。

遺構 調査地の東西端それぞれで福井城の石垣を検出しました。西三の丸にあたる西側石垣では、残りの良いところで6段分(約2m)の石垣を確認しました。根石を含めた下3段は不整形のものを粗く積んでおり、4段目からは長方形の石材を布積みしています。根石の下に胴木はありませんでした。東側石垣は西二の丸の高石垣部分にあたり、残りの良いところでは4段分(約2m)の石垣を確認しました。長方形の石材を布積みしています。根石の下には石垣に平行するように2本の胴木が敷かれていました。また東側石垣では「犬走り」が見つかりました。石垣前面に張り出す形で、堀底から1段高い平坦面を作っています。幅は約2.8m、高さは約1.2mで、前面には不整形な石材を粗く積み上げています。根石の下には2本の胴木と砕石が敷かれています。

また、石垣の下からは古代の溝と柱穴を確認しました。須恵器と土師器の破片が遺構の中から見つかりました。

まとめ 今回検出した堀石垣は、平成25年度の調査結果から想定したとおりの方向や位置にあることがわかりました。

また、東側石垣が本丸の石垣と同様に、犬走りを伴う構造になることを確認しました。検出した犬走りは高石垣に比べ石材の整形や積み方が粗く、外からの見栄えを意識した造りになっていないため、堀に水が入っていた時に犬走りは水面下にあったと考えられます。この犬走りは、石垣の下が弱い地盤であるため、それを補強して高石垣の崩落を防ぐ役割を果たしていたと考えられます。(山場愛弓)



写真1 西側石垣（南東から）



写真2 西側石垣（東から）



写真3 東側石垣（南から）



写真4 東側石垣（西から）

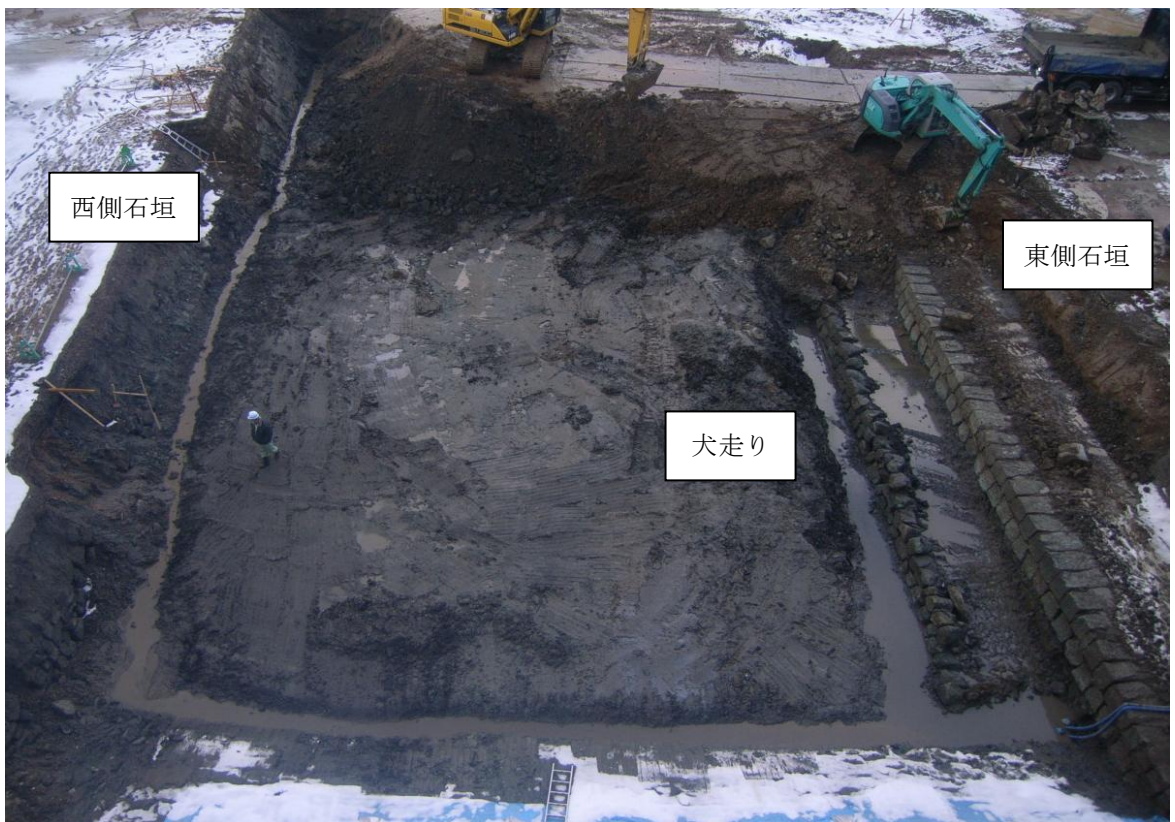


写真5 石垣検出状況